

## 地域社会との共生

### 東北地区における取組

東北地区は、秋田スギや青森ヒバ、南部アカマツなど古くから林業が盛んで、戦後に造成されて主伐期を迎えた多くの人工林も含めて針葉樹の森が広がっています。一方で、白神や会津のブナ林など、広葉樹の天然生林も各地に残されています。しかし、深刻な松くい虫被害をはじめ、最近ではナラ枯れやシカの食害の拡大も懸念されており、多様な森林を適切に維持管理しながら、恵まれた木材資源の活用を図ることが課題となっています。また、太平洋沿岸部では、東日本大震災の津波で被災した海岸林の再生事業も進んでいます。東北の森林研究・整備機構の各機関では、こうした地域の森林や林業がかかえる課題に応えるための取組を行っています。

### 森林総合研究所東北支所

#### 1. 低コストな再造林技術の実証研究

主伐期を迎えた人工林をいかに低コストで伐採し再造林していくのかは、東北でも大きな課題のひとつです。その切り札となるコンテナ苗を使った主伐一再造林の一貫作業に関する技術開発を、農林水産省の研究プロジェクトのなかで、東北各県の試験研究機関や民間企業と連携しながら取組んでいます。とくに、経費のかかる植栽後の下刈り作業については、作業回数や植栽本数を減らしたり、ワラビとの混植や機械地拵えで下草の繁茂を抑える手法などの実証試験を行っています。成果の一部は、講演会やプロジェクトのHPで公開し、行政機関や事業体関係者へ普及を進めています。

#### 2. 病虫害の最前線における防除対策研究

松くい虫被害は、東北北部を除き深刻な状況にあります。支所では、被害の実態把握やマツ材線虫病の機構解明とともに、環境に配慮した寄生細菌を防除資材に利用する手法の開発などに取組んでいます。また、被害の北進を阻止する目的で、盛岡市北部の未被害地を対象に「岩手町横断松くい虫防除帯森林整備推進協定」を

東北森林管理局、岩手県、岩手町、稲村製材所と官民連携で締結し、将来的にはマツ林の樹種転換も含めた多様な森林管理の方法を得るために、植栽試験や広葉樹の萌芽更新の調査などを開始しました。昨年度は、ナラ枯れ被害も含めて、被害現場での駆除法の講習会や、国内外からの視察団への対応にも取組みました。

#### 3. 海岸林の再生に向けた研究

津波の被害跡地では、山土で造成した盛土に苗木（おもにクロマツ）を植栽して海岸林を再生する事業が、国や自治体により進められています。当初、この盛土は重機で踏み固められて透水性が不良となるなどの課題が指摘されました。そこで、土壌の硬さと苗木の根の分布の関係などを調べた結果、盛土を耕起すればその物理性がかなり改善されることがわかりました。こうした情報は、「高田松原再生講座」などNPO法人や関係市町村主催のセミナーや検討会で発信しました。今後は、より海岸林に適した植栽方法や樹種の選択ができるように、広葉樹も含めた伐根調査や実験にも取組んでいきます。



マツ枯れ被害地での説明会  
(韓国山林庁の視察団)



一般公開講演会の様子

はじめに

森林研究・整備機構の紹介

業務の推進

環境への取組

環境にかかわる業務の成果

社会貢献活動への取組

所在地と連絡先

監事意見書